

JICA 基金活用事業 案件概要

I. 事業の概要	
1. 事業名称	言葉でつながる多文化共生事業－多言語・防災をテーマにした実践型プログラム－
2. 活動国・地域	日本・北海道／十勝地域
3. 事業分野	<input type="checkbox"/> 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業 <input checked="" type="checkbox"/> 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業
4. 事業の目標	「ことば」を通じて地域に暮らす多様な人々がつながり、互いに理解し合い、支え合う多文化共生の地域社会を実現する。外国人住民が“受け手”から“担い手”へと変わるプロセスを支援し、日本人と共に暮らし、災害に向き合う実践的な共生の場を創る。
5. 事業の背景・経緯・対象地域の課題・人びとのニーズ	当地域では、近年、農業・食品加工・建設分野などを中心に、外国人労働者や技能実習生の受け入れが増加している。外国人住民は2025年2月末時点で約4,000人、今後さらに増加が見込まれる。就労者や留学生、日本人の配偶者、移住といった多様な背景をもっており、「生活支援」や「地域共生」の取り組みが急務である。しかし、外国人住民と地域社会との間には、日本語教育の機会不足、孤立と情報格差、地域日本人側の“関係づくり”の困難さなど、共生上の課題が存在する。
6. 事業の意義・目的	【意義】外国人住民と日本人が「ことば、多文化、防災」を共通テーマとして協働する機会をつくり、地域に根ざした持続可能な共生モデルの構築を目指す。 【事業の目的】①外国人住民が必要な日本語を学びながら、地域活動に参加する機会をつくる ②地域住民が多文化共生・防災への理解を深め、行動の変化につなげる ③防災や日常生活をテーマにした、実践的な相互理解を促進する ④外国人住民が「支援される立場」から「地域づくりの担い手」へ ⑤小さくても継続できる交流のしくみを育てる
7. 主な対象者	事業実施地域の外国人住民、日本人、自治体職員、受け入れ企業など
8. 実施期間	2025年12月～2026年10月
9. 活動内容	①オンライン日本語教室：生活の日本語、JLPT 試験対策 ②多文化共生ブートキャンプ：防災ワークショップ、防災マップ作成、カードゲーム、多文化交流、多言語ワークショップ、やさしい日本語体験、食文化交流、地域課題ディスカッションなど
9. 事業費	1,000,000円
II. 団体の概要	
1. 実施団体	一般社団法人 にほんごさぼーと北海道
2. 主な活動内容	当法人は、在留外国人が日本で安心安全に暮らせるよう、やさしい日本語の普及活動を中心に、外国人の日本語学習やコミュニケーションのサポート、日本で生活するために必要な情報提供やアドバイス、やさしい日本語の普及活動の実施やその教材開発や提供、日本語ボランティアの養成研修の企画・実施、外国人と日本人が交流するイベントやプログラムの企画・実施などを業務として行っている。